



7月の園だより



令和5年7月1日
目黒区立鷹番保育園園長

梅雨の時期は園庭で遊ぶことはできませんが、その分室内での遊びが充実しています。どのクラスも制作や構成遊びなどでじっくり遊ぶことやホールで体を動かすことなど、バランスよく計画しています。2歳児クラスと5歳児クラスの交流も、互いの部屋に遊びに行くなど盛んに行っています。

どちらのクラスでも人気のある室内遊びのひとつに「じゃれつき遊び」があります。「魔法のじゅうたん」や「メリーゴーランド」では布から落ちないようにしっかりつかまったり、バランスを取ったりと必死さはありながらも表情は笑顔があふれています。本来じゃれつき遊びとはスキンシップやくすぐりなどじゃれ合うことです。「こうでなければならぬ」というルールはありません。人と人とのじゃれ合いが子どもたちの心を開放し、見ていてだけで幸せになれるようなとびきりの笑顔をみせてくれるのです。保育士もこの笑顔のために多少の筋肉痛もなんのそのと、張り切って一緒に楽しんでいます。この楽しみを保育園だけで味わうのはもったいないので、ぜひご家庭でもじゃれつきを堪能してほしいと思います。タオルケット（バスタオルでも可）に子どもを乗せて大人二人でタオルを持ち左右に揺らしたり、じゃんけんして勝ったら相手をくすぐったり、大人が立って手を広げ木になりきり子どもが自分の力で下からよじ登ったり、オリジナルな“我が家のじゃれつき”をお楽しみください。

今月からプール、水遊びが始まります。夏ならではの経験をたくさん楽しみたいと思います。



行事予定

プール開き（幼児クラス）
七夕（幼児クラス）

身体計測 避難訓練



子どものつぶやき、ほのぼのエピソード <2歳児クラス>

保育室の鏡の前で美容院ごっこを楽しんでいた子が保育士にカットやドライヤーをしてもらいその後、こちらにやってきて両手を頬に当て「私本当にかわいいでしょう」と言っていました。その仕草がとても可愛らしかったです。



園庭でたらいの中に何色か色水が作ってあるのを見て「あれ、水たまりみたいだね」「あっちはメロンみたい」と教えてくれました。黄色の水を見て「でもあれはわからないな」と言ったので、「本当だね。レモン色かな」と答えると「レモン色かな」と言いながら、すっぱそうな顔をして、味を想像している姿が可愛かったです。



きりん組の子がテラスで虫を見つけ、虫かごに入れていました。それを見ていたうさぎ組の子が、手に持っていたボールをボトルケースの中に入れて中を覗いています。葉っぱを拾って来ると、ケースの中に入れ「あ、食べた」と、ボールに食べさせる真似をしていました。お姉さんの真似をして真剣にお世話をしていました。子どもの発想力や想像力の豊かさを感じました。



5歳児クラスの室内遊びの様子をお知らせします

「ラキュー」 きりん組

きりん組になりラキューでの遊びが本格的になってきました。最近では色々作れるようになり、難しい物にも挑戦している子どもたちです。しかし、みんなが作れるようになってきたことで、欲しいパーツが足りなくなったり、パーツがないから作れないと困っている姿もみられます。どうしたらいいか子どもたちと話し合うと「せっかく作った物を壊すのはもったいない、でも新しいものが作れないのは困る」と、悩む子どもたち。そこで、金曜日にどうしてもとっておきたい物1つを残して壊し、リセットすることになりました。頑張って作った作品なので、壊す前に写真を撮り、部屋にギャラリーを作って共有できるように掲示すると、自分の作品を紹介したり、一つひとつを見ながら誰が作ったのかを話したり「これ難しかったんだよね」と、懐かしんだり、友達の作品に刺激され同じものに挑戦してみようとしたりする姿が見られるようになりました。友達と同じカブトムシに挑戦している子が「ここどうやってやるか分からない」と悩んでいた時には「これ見ながら作っていいよ」と、作ったカブトムシを見せてくれ、本ではなく実物を見ながら作ることができ、より分かりやすく嬉しそうです。



また、本や友達の物とそっくり同じにはせず、角の部分のアレンジしたりして自分だけのオリジナル作品を作り、友達と見せ合うことで自信にもなっています。遊んでいく中で、イメージ豊かに工夫したり、友達と自然に協力できるようになりました。

様々な経験が学びとなり友達と共に自信をつけていく子どもたちです。



事務所から見える子どもの姿



「もう、だいじょうぶ」 副園長

事務所で仕事をしていると何やら視線を感じたのでプールサイドの方に目を向けると子どもがこちらを見えていました。「どうしましたか」と尋ねると「ここ」と膝を見せてくれました。膝には擦り傷がみられたので「ケガしてしまったんだね」と声をかけるとうなづいています。「土がついてるみたいだから水で洗おうね」と水道で傷口を洗うと「もう、だいじょうぶ」と伝えてくれました。以前は、小さな傷でも大泣きをして手当されることを拒んでいた姿を思い出して「前は、たくさん泣いていたけど、今は全然泣かないね」と声をかけると照れ臭そうに微笑みながらもほこらしげに胸を張っていた姿がとても印象的でした。

日々成長していく子どもたち。小さな成長でも見逃さずきちんと伝えていくことで子どものさらなる自信に繋がっていくことを感じました。これからも、全職員で子どもたちの成長を喜びあっていきたいと思っています。

